

8月29日(土)、吉野川市鴨島公民館において、NPO法人 江川エコフレンド主催・吉野川交流推進会議共催により「日本三大河川シンポジウム2015」(江川・吉野川の環境美化・保全の未来を考える)を開催しました。坂東太郎・利根川、筑紫次郎・筑後川、四国三郎・吉野川の三大河川、加えて江川、新町川、正法寺川など県内各地の川を愛する人々が一堂に集まるのは初めての試みです。

まずは中流を代表して、吉野川市文化協会、NPO法人 江川エコフレンド、吉野川市立鴨島第一中学校生徒会、徳島県立吉野川高等学校JRCインターアクト部の皆さんが、江川での環境美化活動を発表しました。今号の表紙を飾った美しい江川湧水源も、かつては荒れ放題で草木が流れをせき止めていたとか。江川エコフレンドの岡田晋さんは「今朝も清掃してきました。今日も中学生が54名参加してくれました」と、当たり前のよう話していましたが、こうした地道な活動によって川が守られているのだなあと感じました。



吉野川市を中心に活動する「太鼓一家」の和太鼓演奏で幕開け。子ども達を中心としたエネルギー溢る演奏で盛り上げてくれました

吉野川流域で活動するキーマン、そして利根川、筑後川のメンバーによるシンポジウム。活発な意見が飛び交い、予定時間が足りないほどでした



NPO法人 新町川を守る会 理事長 中村英雄さん



利根川流域交流会 会長 福成孝三さん



NPO法人 筑後川流域連携倶楽部 理事長 駄田井 正さん



正法寺川を考える会 会長 米田 博さん



美馬町まちづくり委員会「美馬未来塾」委員長 千葉昭彦さん



徳島大学大学院 教授 上月康則さん



江川で環境美化活動をしている4団体の発表。鴨島第一中学校生徒会や吉野川高専JRC インターアクト部など若い世代の活躍が頼もしい!



ロビーでは、江川エコフレンド、江川奉仕橋かもクラブによるパネル展示も



三河川交流のシンボル・青いダルマもシンポジウムに参加

## 吉野川市に三大河川が集結！シンポジウムを開催しました



フィナーレは吉野川市の「きらく連」の阿波おどり。この後、会場に大きな踊りの渦が巻いたのは言うまでもありません

後半は、徳島大学大学院教授の上月康則さんをコーディネーターに迎え、第3回まるごと吉野川「魅力再発見」講座として、各河川のヌシ、もとい、代表者による三大河川パネルディスカッションを行いました。

利根川流域交流会会長・福成孝三さんは、「利根川は流域が広大でまとまりにくく、上中・下流で課題や活動の目指すところも違う。しかし、これを利根川の特徴として楽しんでいきたい」と、川を中心に据えた地域づくりについて語りました。

流域各地で筑後川フェスティバルを行い、筑後川新聞を発行するなど、活発な活動を行っているNPO法人 筑後川流域連携倶楽部理事長の駄田井 正さんは「流域全体をテーマパークと考えた『まるごとリバーパーク』構想が基盤。今後は、今ある施設を川の駅として利用して、川の活動の

拠点づくり、ネットワーク作りをしていきたい」と今後の課題を挙げてくれました。そして吉野川といえばこの人。NPO法人 新町川を守る会理事長・中村英雄さんは「川の活動は人づくり。さきほどの発表を聞いて、西の中高生は頼もしいと感じました」とエールを送り、「徳島市には138の川がある。この川を生かして、水辺に人が集まる町づくりを」と呼びかけました。

水辺の楽校を拠点に活動する美馬町まちづくり委員会「美馬未来塾」委員長・千葉昭彦さんは「人々の、川や自然を守りたいという気持ちを育てることが大事」と、小学校の卒業記念植樹の活動を紹介。正法寺川を考える会会長・米田博さんは「自立、共同、交流、成長がキーワード。今後、も身の丈にあった活動を楽しんで継続していきたい」と。そしてNPO法人 江川エコフレンド理事長の岡田年弘さんは、「清掃活

動から始まった中高生との連携だが、今ではその子達が地域の行事に参加したり、



江川エコフレンドの岡田理事長さんの案内で、川島城山や川島神社周辺を見学。城山の岩の鼻からの雄大な吉野川の流れも見てもらいました



学校ぐるみで参加するなど、連携から一歩進み、連帯感が感じられる活動になった。環境整備を進め、吉野川歴史資料館も作りたい」と、未来への展望を語り、最後にコーディネーターの上月康則さんが「それぞれの河川の特性や資源を見つけて、楽しく、誇りを持って、それをうまく生かしている。中高生や行政も共に、さらに上手な生かし方を議論していくことが必要」と締めくくりました。

翌日は「吉野川現地案内ツアー」を開催。約40名が参加し、江川湧水源、川島城、岩津橋、土柱などを巡りました。川島城山の岩の鼻は、大きく蛇行する川の流れと、吉野川最大の川中島・善入寺島を見渡すビューポイント。カンドリ舟が漂う風情ある眺めに、参加者は一斉にカメラのシャッターを切っていました。岩津では「水が青くてきれいだね」という声に、すかさず吉野川交流推進会議の福永義和会長が「船がたくさんとれるんですよ」と吉野川自慢。ツアーの間中、にぎやかな話の輪ができており、絆の深まりを感じた一日でした。



「しよちゆう会ってからの、親戚みたいな感覚」と筑後川の駄田井さん。河川だけでなく、ひと同士も強いつながりができました

### 利根川・筑後川へ

秋は吉野川のメンバーが兄弟達を訪ねる番です。10月30日・31日には利根川流域交流会主催の『首都圏のオアシス 手賀沼』KASHIWA大会(千葉県)に17名が参加。吉野川や筑後川のメンバーも加わってのシンポジウムや現地見学会で交流を深めました。

また、11月7日・8日は恒例の第29回筑後川フェスティバル in 玖珠(大分県)に吉野川チーム19名が参加。「集中豪雨災害と次世代への森林づくり」など興味深い講座が目白押し。三大河川交流会で意見交換したり、筑後川上流の史跡めぐりツアーなどを楽しみ、来年の再開を約束して別れました。



北千葉導水ビジターセンターで北千葉導水路の役割を学びました



筑後川では、国の名勝である旧久留島氏庭園を散策。江戸時代につくられた名園は、紅葉でなんともいえない美しさ